

ダイワ日本国債ファンド (毎月分配型)

運用報告書 (全体版)

第99期 (決算日 2014年10月10日)
 第100期 (決算日 2014年11月10日)
 第101期 (決算日 2014年12月10日)
 第102期 (決算日 2015年1月13日)
 第103期 (決算日 2015年2月10日)
 第104期 (決算日 2015年3月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ日本国債マザーファンドの受益証券
	ダイワ日本国債マザーファンド	わが国の公社債
マザーファンドの運用方法	①主としてわが国の国債に投資し、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざして運用を行ないます。 ②わが国の国債への投資にあたっては、原則として、最長15年程度までの国債を、各残存期間毎の投資金額がほぼ同程度となるように組入れます。 ③国債の組入れは原則として高位を保ちます。 ④運用の効率化を図るため、債券先物取引等を利用することがあります。このため、公社債の組入総額ならびに債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、基準価額の水準等によっては、上記にかかわらず今後の安定分配を継続するための分配原資の水準を考慮したうえで分配を付加することがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド(当ファンド)とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ日本国債ファンド(毎月分配型)」は、このたび、第104期の決算を行ないました。

ここに、第99期～第104期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先(コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00~17:00)

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■最近30期の運用実績

決算期	基準価額			ダイワ・ボンド・インデックス国債指数		公社債組入比率	債券先物率	純資産額
	(分配落)	税込み配金	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
75期末(2012年10月10日)	10,371	20	0.2	11,653	0.1	99.4	—	283,059
76期末(2012年11月12日)	10,376	20	0.2	11,682	0.3	99.3	—	295,025
77期末(2012年12月10日)	10,390	20	0.3	11,712	0.3	99.0	—	309,054
78期末(2013年1月10日)	10,295	20	△0.7	11,632	△0.7	99.2	—	312,596
79期末(2013年2月12日)	10,330	20	0.5	11,686	0.5	98.8	—	312,496
80期末(2013年3月11日)	10,383	20	0.7	11,789	0.9	98.6	—	313,011
81期末(2013年4月10日)	10,393	20	0.3	11,904	1.0	99.7	—	311,568
82期末(2013年5月10日)	10,320	20	△0.5	11,802	△0.9	99.4	—	310,996
83期末(2013年6月10日)	10,232	20	△0.7	11,733	△0.6	99.2	—	296,652
84期末(2013年7月10日)	10,206	20	△0.1	11,702	△0.3	99.2	—	294,457
85期末(2013年8月12日)	10,250	20	0.6	11,784	0.7	98.9	—	295,320
86期末(2013年9月10日)	10,254	20	0.2	11,804	0.2	98.7	—	295,556
87期末(2013年10月10日)	10,288	20	0.5	11,910	0.9	99.7	—	294,978
88期末(2013年11月11日)	10,316	20	0.5	11,959	0.4	99.3	—	297,256
89期末(2013年12月10日)	10,269	20	△0.3	11,925	△0.3	99.2	—	300,863
90期末(2014年1月10日)	10,237	20	△0.1	11,930	0.0	99.2	—	305,148
91期末(2014年2月10日)	10,271	20	0.5	11,995	0.5	98.9	—	307,780
92期末(2014年3月10日)	10,253	20	0.0	12,000	0.0	98.7	—	312,132
93期末(2014年4月10日)	10,240	20	0.1	12,006	0.0	99.6	—	322,713
94期末(2014年5月12日)	10,218	20	△0.0	12,010	0.0	99.4	—	328,147
95期末(2014年6月10日)	10,216	20	0.2	12,038	0.2	99.2	—	331,163
96期末(2014年7月10日)	10,234	20	0.4	12,080	0.4	99.4	—	341,533
97期末(2014年8月11日)	10,228	20	0.1	12,110	0.3	99.0	—	348,127
98期末(2014年9月10日)	10,204	20	△0.0	12,114	0.0	99.0	—	351,533
99期末(2014年10月10日)	10,212	20	0.3	12,158	0.4	99.6	—	361,840
100期末(2014年11月10日)	10,231	20	0.4	12,237	0.6	99.4	—	366,825
101期末(2014年12月10日)	10,261	20	0.5	12,328	0.7	99.3	—	370,914
102期末(2015年1月13日)	10,339	20	1.0	12,516	1.5	99.3	—	378,684
103期末(2015年2月10日)	10,216	20	△1.0	12,317	△1.6	99.1	—	379,788
104期末(2015年3月10日)	10,159	20	△0.4	12,257	△0.5	98.8	—	380,834

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) ダイワ・ボンド・インデックス国債指数は、ダイワ・ボンド・インデックス国債指数の原データに基づき、当ファンド設定日の前営業日を10,000として大和投資信託が計算したものです。

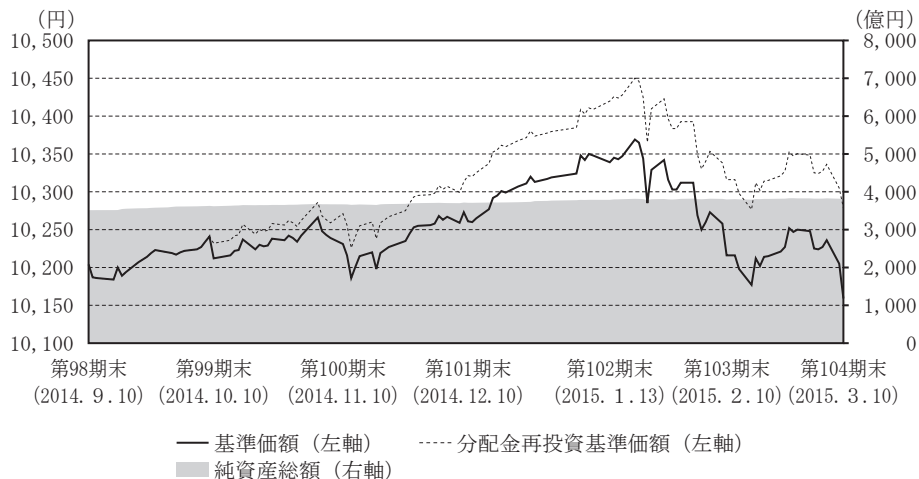
ダイワ・ボンド・インデックスは、大和総研が開発した日本における確定利付債券市場のパフォーマンスを測定する指数であり、対象となる債券の時価総額加重方式による累積投資収益率指数です。

(注3) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注4) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債）を除きます。

(注5) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

■ 当作成期間（第99期～第104期）中の基準価額と市況の推移



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。

	年 月 日	基 準 価 額		ダイワ・ボンド・インデックス国債指数 (参考指数)		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
第99期	(期首) 2014年9月10日	円 10,204	% —	12,114	% —	% 99.0	% —
	9月末	10,219	0.1	12,148	0.3	99.6	—
	(期末) 2014年10月10日	10,232	0.3	12,158	0.4	99.6	—
第100期	(期首) 2014年10月10日	10,212	—	12,158	—	99.6	—
	10月末	10,242	0.3	12,209	0.4	99.4	—
	(期末) 2014年11月10日	10,251	0.4	12,237	0.6	99.4	—
第101期	(期首) 2014年11月10日	10,231	—	12,237	—	99.4	—
	11月末	10,255	0.2	12,290	0.4	99.3	—
	(期末) 2014年12月10日	10,281	0.5	12,328	0.7	99.3	—
第102期	(期首) 2014年12月10日	10,261	—	12,328	—	99.3	—
	12月末	10,319	0.6	12,432	0.8	99.3	—
	(期末) 2015年1月13日	10,359	1.0	12,516	1.5	99.3	—
第103期	(期首) 2015年1月13日	10,339	—	12,516	—	99.3	—
	1月末	10,312	△0.3	12,433	△0.7	99.0	—
	(期末) 2015年2月10日	10,236	△1.0	12,317	△1.6	99.1	—
第104期	(期首) 2015年2月10日	10,216	—	12,317	—	99.1	—
	2月末	10,250	0.3	12,358	0.3	99.3	—
	(期末) 2015年3月10日	10,179	△0.4	12,257	△0.5	98.8	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

第99期首：10,204円 第104期末：10,159円（既払分配金120円） 騰落率：0.7%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

主として「ダイワ日本国債マザーファンド」の受益証券を通じて、わが国の国債に投資した結果、国債からの利息収入を得るとともに金利水準の低下による国債の値上がり益が発生したことが寄与し、基準価額は値上がりしました。

◆投資環境について

○国内債券市況

国内長期金利は、第99期首より、米国長期金利の上昇や円相場の急落、堅調な株価推移などを受けて上昇局面で始まりましたが、2014年9月半ば以降は、地政学的な緊張や世界経済の鈍化懸念などから低下に転じ、10月末には日銀が量的・質的金融緩和を拡大したことから、11月初めに一段と低下しました。その後の国内長期金利は、11月半ばにかけていったん上昇しましたが、引締まった国債需給を背景に再び低下に転じ、欧米長期金利が大幅に低下する中、日銀の追加緩和への思惑もあって2015年1月にかけて低下基調を強めました。日銀が金融政策を据え置く中、1月下旬以降、国内長期金利は、流動性の低下した国債市場での一時的な需給悪化を契機に、乱高下を交えながら2月半ばにかけて急上昇し、その後も不安定な推移が続く中で第104期末を迎えました。

◆前作成期間末における「今後の運用方針」

主として「ダイワ日本国債マザーファンド」の受益証券を通じて、わが国の国債に投資し、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざした運用を行ないます。

また、マザーファンドの運用につきましても、運用の基本方針に基づき、当期間を通じてわが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行なってまいります。

◆ポートフォリオについて

○当ファンド

主として「ダイワ日本国債マザーファンド」の受益証券を通じて、わが国の国債に投資し、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざした運用を行ないました。

○ダイワ日本国債マザーファンド

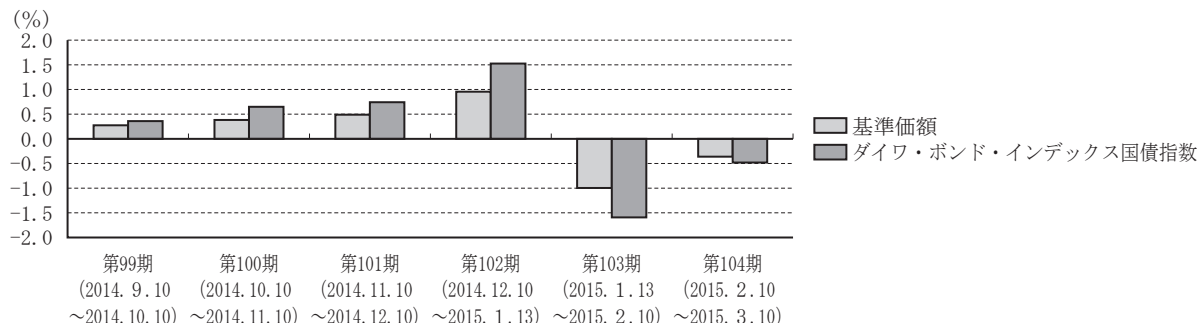
運用の基本方針に基づき、当作成期間を通じてわが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。

当ファンドは運用スキーム上、参考指数と比較して残存15年以上の国債の組入れがないという特徴があります。参考指数は国内債券市場の動向を表す代表的な指数として掲載しております。



◆分配金について

【収益分配金】

第99期から第104期の1万円当り分配金（税込み）はそれぞれ20円といたしました。

■分配原資の内訳（1万円当り）

項 目	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期	第104期
	2014年9月11日 ～2014年10月10日	2014年10月11日 ～2014年11月10日	2014年11月11日 ～2014年12月10日	2014年12月11日 ～2015年1月13日	2015年1月14日 ～2015年2月10日	2015年2月11日 ～2015年3月10日
当期分配金（税込み）（円）	20	20	20	20	20	20
対基準価額比率（%）	0.20	0.20	0.19	0.19	0.20	0.20
当期の収益（円）	16	17	17	20	14	14
当期の収益以外（円）	3	2	2	—	5	5
翌期繰越分配対象額（円）	1,038	1,036	1,034	1,074	1,069	1,063

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

ダイワ日本国債ファンド（毎月分配型）

【決定根拠、留保益の今後の運用方針】

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期	第 103 期	第 104 期
(a) 経費控除後の配当等収益	16.38円	17.94円	17.60円	20.15円	14.52円	14.44円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	39.42	0.00	0.00
(c) 収益調整金	1,041.67	1,038.36	1,036.63	1,034.61	1,036.24	1,037.38
(d) 分配準備積立金	0.00	0.00	0.00	0.00	38.22	31.82
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	1,058.05	1,056.30	1,054.24	1,094.18	1,089.00	1,083.66
(f) 分配金	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	1,038.05	1,036.30	1,034.24	1,074.18	1,069.00	1,063.66

(注) 下線を付した該当項目から分配金を計上しています。

《今後の運用方針》

○当ファンド

主として「ダイワ日本国債マザーファンド」の受益証券を通じて、わが国の国債に投資し、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざした運用を行ないます。

○ダイワ日本国債マザーファンド

運用の基本方針に基づき、わが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行なってまいります。

■1万口当りの費用の明細

項 目	第99期～第104期		項 目 の 概 要
	(2014. 9. 11～2015. 3. 10)		
	金 額	比 率	
信託報酬	16円	0.160%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額（月末値の平均値）は10,254円です。
（投信会社）	(6)	(0.059)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(9)	(0.085)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(2)	(0.016)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	—	—	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合 計	16	0.160	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2014年9月11日から2015年3月10日まで)

決算期	第99期～第104期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ日本国債マザーファンド	28,934,953	34,974,120	7,275,472	8,808,793

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

当作成期間（第99期～第104期）中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

(2014年9月11日から2015年3月10日まで)

決算期	第99期～第104期					
	買付額等			売付額等		
	A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	69,828	1,567	2.2	27,673	588	2.1
コール・ローン	151,791	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合97.9%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2014年10月10日)、(2014年11月10日)、(2014年12月10日)、(2015年1月13日)、(2015年2月10日)、(2015年3月10日)現在

項目	第99期末	第100期末	第101期末	第102期末	第103期末	第104期末
(A) 資産	363,171,981,630円	368,195,932,831円	372,762,460,746円	380,137,989,415円	381,140,286,601円	382,306,891,422円
コール・ローン等	1,521,242,183	1,552,588,918	1,816,134,036	1,652,750,043	1,554,978,057	1,678,301,874
ダイワ日本国債マザーファンド(評価額)	361,650,739,447	366,632,945,259	370,946,326,710	378,485,239,372	379,585,308,544	380,628,589,548
未収入金	—	10,398,654	—	—	—	—
(B) 負債	1,331,919,418	1,370,447,425	1,847,928,323	1,453,820,501	1,352,164,563	1,472,855,629
未払収益分配金	708,678,534	717,069,242	722,962,482	732,511,302	743,549,866	749,778,657
未払解約金	528,020,056	552,540,921	1,026,319,622	607,481,867	513,108,136	627,190,205
未払信託報酬	95,044,496	100,477,819	98,110,190	113,089,324	94,602,677	94,818,547
その他未払費用	176,332	359,443	536,029	738,008	903,884	1,068,220
(C) 純資産総額(A-B)	361,840,062,212	366,825,485,406	370,914,532,423	378,684,168,914	379,788,122,038	380,834,035,793
元本	354,339,267,274	358,534,621,029	361,481,241,119	366,255,651,435	371,774,933,490	374,889,328,999
次期繰越損益金	7,500,794,938	8,290,864,377	9,433,291,304	12,428,517,479	8,013,188,548	5,944,706,794
(D) 受益権総口数	354,339,267,274口	358,534,621,029口	361,481,241,119口	366,255,651,435口	371,774,933,490口	374,889,328,999口
1万口当り基準価額(C/D)	10,212円	10,231円	10,261円	10,339円	10,216円	10,159円

*第98期末における元本額は344,488,642,393円、当作成期間（第99期～第104期）中における追加設定元本額は77,364,750,379円、同解約元本額は46,964,063,773円です。

*第104期末の計算口数当りの純資産額は10,159円です。

(3) 当作成期間中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期間（第99期～第104期）中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期間における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種類	第98期末	第104期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ日本国債マザーファンド	293,378,253	315,037,733	380,628,589

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年3月10日現在

項目	第104期末	
	評価額	比率
	千円	%
ダイワ日本国債マザーファンド	380,628,589	99.6
コール・ローン等、その他	1,678,301	0.4
投資信託財産総額	382,306,891	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ日本国債ファンド（毎月分配型）

■ 損益の状況

第99期 自2014年9月11日 至2014年10月10日 第102期 自2014年12月11日 至2015年1月13日
 第100期 自2014年10月11日 至2014年11月10日 第103期 自2015年1月14日 至2015年2月10日
 第101期 自2014年11月11日 至2014年12月10日 第104期 自2015年2月11日 至2015年3月10日

項 目	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期	第 103 期	第 104 期
(A) 配 当 等 收 益	48,168円	44,605円	51,174円	61,091円	48,891円	51,284円
受 取 利 息	48,168	44,605	51,174	61,091	48,891	51,284
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	1,051,449,958	1,498,209,210	1,892,944,900	3,656,429,502	△ 3,732,737,392	△ 1,296,520,722
売 買 益	1,057,585,970	1,512,941,855	1,908,363,295	3,687,781,852	17,476,190	4,847,035
売 買 損	△ 6,136,012	△ 14,732,645	△ 15,418,395	△ 31,352,350	△ 3,750,213,582	△ 1,301,367,757
(C) 信 託 報 酬 等	△ 95,220,828	△ 100,660,930	△ 98,286,776	△ 113,291,303	△ 94,768,553	△ 94,982,883
(D) 当 期 繰 越 損 益 金 (A+B+C)	956,277,298	1,397,592,885	1,794,709,298	3,543,199,290	△ 3,827,457,054	△ 1,391,452,321
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 3,814,445,045	△ 3,380,624,460	△ 2,551,126,103	△ 1,361,145,441	1,421,219,945	△ 3,086,458,404
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	11,067,641,219	10,990,965,194	10,912,670,591	10,978,974,932	11,162,975,523	11,172,396,176
(配 当 等 相 当 額)	(36,910,524,212)	(37,228,808,378)	(37,472,361,264)	(37,893,265,068)	(38,525,168,376)	(38,890,534,216)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 25,842,882,993)	(△ 26,237,843,184)	(△ 26,559,690,673)	(△ 26,914,290,136)	(△ 27,362,192,853)	(△ 27,718,138,040)
(G) 合 計 (D+E+F)	8,209,473,472	9,007,933,619	10,156,253,786	13,161,028,781	8,756,738,414	6,694,485,451
(H) 収 益 分 配 金	△ 708,678,534	△ 717,069,242	△ 722,962,482	△ 732,511,302	△ 743,549,866	△ 749,778,657
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	7,500,794,938	8,290,864,377	9,433,291,304	12,428,517,479	8,013,188,548	5,944,706,794
追 加 信 託 差 損 益 金	10,939,399,108	10,917,318,868	10,826,273,688	10,978,974,932	11,162,975,523	11,172,396,176
(配 当 等 相 当 額)	(36,782,282,101)	(37,155,162,052)	(37,385,964,361)	(37,893,265,068)	(38,525,168,376)	(38,890,534,216)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 25,842,882,993)	(△ 26,237,843,184)	(△ 26,559,690,673)	(△ 26,914,290,136)	(△ 27,362,192,853)	(△ 27,718,138,040)
分 配 準 備 積 立 金	—	—	—	1,449,542,547	1,217,665,243	984,983,104
繰 越 損 益 金	△ 3,438,604,170	△ 2,626,454,491	△ 1,392,982,384	—	△ 4,367,452,218	△ 6,212,672,486

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

■ 収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期	第 103 期	第 104 期
(a) 経費控除後の配当等収益	580,436,423円	643,422,916円	636,565,579円	738,222,542円	539,995,164円	541,578,492円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	1,443,831,307	0	0
(c) 収益調整金	36,910,524,212	37,228,808,378	37,472,361,264	37,893,265,068	38,525,168,376	38,890,534,216
(d) 分配準備積立金	0	0	0	0	1,421,219,945	1,193,183,269
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	37,490,960,635	37,872,231,294	38,108,926,843	40,075,318,917	40,486,383,485	40,625,295,977
(f) 分配金	708,678,534	717,069,242	722,962,482	732,511,302	743,549,866	749,778,657
(g) 翌期繰越分配対象額(e-f)	36,782,282,101	37,155,162,052	37,385,964,361	39,342,807,615	39,742,833,619	39,875,517,320
(h) 受益権総口数	354,339,267,274口	358,534,621,029口	361,481,241,119口	366,255,651,435口	371,774,933,490口	374,889,328,999口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期	第 103 期	第 104 期
1 万 口 当 り 分 配 金	20円	20円	20円	20円	20円	20円
(単 価)	(10, 212円)	(10, 231円)	(10, 261円)	(10, 339円)	(10, 216円)	(10, 159円)

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、上記()内の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

《お知らせ》

●運用報告書（全体版）の電子交付について

2014年12月1日施行の法改正により、運用報告書は「交付運用報告書」と「運用報告書（全体版）」（本書）の2種類になりましたが、「運用報告書（全体版）」については、交付に代えて電子交付する旨を信託約款に決めました。

【本資料は、受益者のみなさまにファンドの運用状況をお知らせするためのものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。】

ダイワ日本国債マザーファンド

運用報告書 第10期（決算日 2015年3月10日）

（計算期間 2014年3月11日～2015年3月10日）

ダイワ日本国債マザーファンドの第10期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	わが国の国債を投資対象とし、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざして運用を行ないます。
主要投資対象	わが国の公社債
運用方法	①主としてわが国の国債に投資し、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざして運用を行ないます。 ②わが国の国債への投資にあたっては、原則として、最長15年程度までの国債を、各残存期間毎の投資金額がほぼ同程度となるように組入れます。 ③国債の組入れは原則として高位を保ちます。 ④運用の効率化を図るため、債券先物取引等を利用することがあります。このため、公社債の組入総額ならびに債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

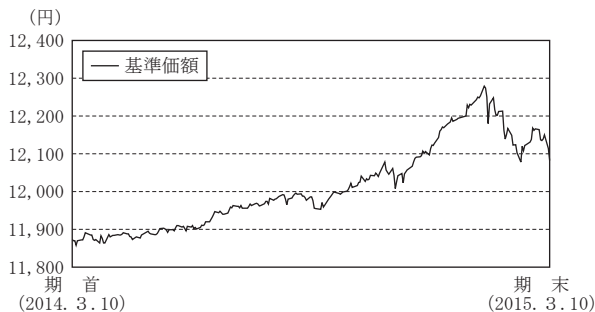
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額と市況の推移



年月日	基準 価 額		ダイワ・ボンド・インデックス国債指数 (参考指数)		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
	円	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首)2014年3月10日	11,873	—	11,858	—	98.7	—
3月末	11,864	△0.1	11,844	△0.1	99.4	—
4月末	11,878	0.0	11,862	0.0	99.4	—
5月末	11,910	0.3	11,899	0.3	99.2	—
6月末	11,944	0.6	11,935	0.6	99.3	—
7月末	11,962	0.7	11,954	0.8	99.1	—
8月末	11,993	1.0	11,997	1.2	99.0	—
9月末	11,995	1.0	12,005	1.2	99.6	—
10月末	12,049	1.5	12,065	1.7	99.5	—
11月末	12,091	1.8	12,145	2.4	99.4	—
12月末	12,194	2.7	12,285	3.6	99.3	—
2015年1月末	12,212	2.9	12,287	3.6	99.0	—
2月末	12,166	2.5	12,212	3.0	99.2	—
(期末)2015年3月10日	12,082	1.8	12,113	2.1	98.8	—

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) ダイワ・ボンド・インデックス国債指数は、ダイワ・ボンド・インデックス国債指数の原データに基づき、当ファンド設定日の前営業日を10,000として大和投資信託が計算したものです。
 ダイワ・ボンド・インデックスは、大和総研が開発した日本における確定利付債券市場のパフォーマンスを測定する指数であり、対象となる債券の時価総額加重方式による累積投資収益率指数です。
 (注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除く。
 (注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：11,873円 期末：12,082円 騰落率：1.8%

【基準価額の変動要因】

主としてわが国の国債に投資した結果、国債からの利息収入を得るとともに金利水準の低下による国債の値上がり益が発生したことが寄与し、基準価額は値上がりしました。

◆投資環境について

○国内債券市況

国内長期金利は、期首より横ばい圏での推移で始まりましたが、2014年6月半ば以降は、良好な国債需給が反映され始め世界的に株価が不安定化する中、欧米の長期金利低下もあり8月末にかけて低下しました。9月に入ると、国内長期金利はいったん上昇しましたが、9月半ば以降は、地政学的な緊張や世界経済の鈍化懸念などから低下に転じ、10月末には日銀が量的・質的金融緩和を拡大したこ

とから、11月初めに一段と低下しました。その後の国内長期金利は11月半ばにかけていったん上昇しましたが、引縮まった国債需給を背景に再び低下に転じ、欧米長期金利が大幅に低下する中、日銀の追加緩和への思惑もあって2015年1月にかけて低下基調を強めました。日銀が金融政策を据え置く中、1月下旬以降、国内長期金利は、流動性の低下した国債市場での一時的な需給悪化を契機に、乱高下を交えながら2月半ばにかけて急上昇し、その後も不安定な推移が続く中で期末を迎えました。

◆前期における「今後の運用方針」

わが国の国債を投資対象とし、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざします。そのため、国債の組入れは原則として高位を保ちながら、残存年限が最長15年程度までの国債を、残存期間ごとの投資金額がほぼ同程度となるようにポートフォリオを構築する方針を継続いたします。

◆ポートフォリオについて

運用の基本方針に基づき、期を通じてわが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間(残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分)の各投資金額がほぼ同程度となるような運用(ラダー型運用)を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率は、それぞれ1.8%、2.1%となりました。

当ファンドは運用スキーム上、参考指数と比較して残存15年以上の国債の組入れがないという特徴があります。参考指数は国内債券市場の動向を表す代表的な指数として掲載しております。

《今後の運用方針》

運用の基本方針に基づき、わが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間(残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分)の各投資金額がほぼ同程度となるような運用(ラダー型運用)を行なってまいります。

■1万口当りの費用の明細

項目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用	—
合 計	—

(注) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2014年3月11日から2015年3月10日まで)

国 内	国 債 証 券	買 付 額	売 付 額
		千円	千円
		146,959,844	58,635,135 (20,038,000)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
 (注2) ()内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2014年3月11日から2015年3月10日まで)

当 期		期	
買	付	売	付
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
111 20年国債 2.2% 2029/6/20	10,091,092	47 20年国債 2.2% 2020/9/21	6,094,051
1 30年国債 2.8% 2029/9/20	9,971,318	111 20年国債 2.2% 2029/6/20	6,045,360
110 20年国債 2.1% 2029/3/20	6,507,312	64 20年国債 1.9% 2023/9/20	5,396,037
80 20年国債 2.1% 2025/6/20	5,886,990	65 20年国債 1.9% 2023/12/20	3,494,112
64 20年国債 1.9% 2023/9/20	5,587,340	44 20年国債 2.5% 2020/3/20	2,822,995
74 20年国債 2.1% 2024/12/20	4,946,476	83 20年国債 2.1% 2025/12/20	2,622,830
47 20年国債 2.2% 2020/9/21	4,922,745	49 20年国債 2.1% 2021/3/22	2,465,811
61 20年国債 1% 2023/3/20	4,170,083	70 20年国債 2.4% 2024/6/20	2,395,540
46 20年国債 2.2% 2020/6/22	4,128,345	63 20年国債 1.8% 2023/6/20	2,229,405
115 20年国債 2.2% 2029/12/20	3,654,060	95 20年国債 2.3% 2027/6/20	2,071,597

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内(邦貨建)公社債(種類別)

区 分	当 期			末			
	額面金額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年末満
国債証券	341,654,000	384,049,615	98.8	—	66.4	19.4	13.0

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2) 国内(邦貨建)公社債(銘柄別)

区 分	当 期			末		
	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
		%	千円	千円		
国債証券	28 利付国債20年	5.0000	9,963,000	9,973,859	2015/03/20	
	270 10年国債	1.3000	1,200,000	1,204,248	2015/06/20	
	92 5年国債	0.3000	300,000	300,471	2015/09/20	
	273 10年国債	1.5000	1,500,000	1,511,790	2015/09/20	
	29 利付国債20年	4.2000	10,070,000	10,293,050	2015/09/21	
	30 利付国債20年	3.7000	690,000	703,461	2015/09/21	
	276 10年国債	1.6000	300,000	303,708	2015/12/20	
	337 2年国債	0.1000	1,000,000	1,000,930	2016/02/15	
	32 利付国債20年	3.7000	9,543,000	9,903,725	2016/03/21	
	281 10年国債	2.0000	2,000,000	2,050,560	2016/06/20	
	283 10年国債	1.8000	400,000	410,892	2016/09/20	
	33 利付国債20年	3.8000	10,694,000	11,310,616	2016/09/20	
	284 10年国債	1.7000	400,000	411,924	2016/12/20	
	349 2年国債	0.1000	1,100,000	1,101,584	2017/02/15	
	285 10年国債	1.7000	200,000	206,748	2017/03/20	
	34 利付国債20年	3.5000	9,219,000	9,865,344	2017/03/20	
	35 利付国債20年	3.3000	300,000	319,821	2017/03/20	
	287 10年国債	1.9000	850,000	886,116	2017/06/20	
	288 10年国債	1.7000	400,000	416,860	2017/09/20	
	36 利付国債20年	3.0000	770,000	827,511	2017/09/20	
	37 利付国債20年	3.1000	10,723,000	11,550,922	2017/09/20	
	107 5年国債	0.2000	300,000	301,371	2017/12/20	
	289 10年国債	1.5000	700,000	728,427	2017/12/20	
	292 10年国債	1.7000	1,200,000	1,259,928	2018/03/20	

区 分	当 期		末	
	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額
		%	千円	千円
	38 利付国債20年	2.7000	9,426,000	10,181,211
	296 10年国債	1.5000	700,000	735,462
	40 20年国債	2.3000	11,242,000	12,125,846
	116 5年国債	0.2000	1,000,000	1,004,510
	42 20年国債	2.6000	10,518,000	11,571,272
	43 20年国債	2.9000	11,372,000	12,789,292
	122 5年国債	0.1000	800,000	798,480
	44 20年国債	2.5000	7,285,000	8,148,418
	46 20年国債	2.2000	3,500,000	3,877,825
	47 20年国債	2.2000	6,600,000	7,347,912
	48 20年国債	2.5000	5,701,000	6,472,117
	49 20年国債	2.1000	3,018,000	3,371,528
	51 20年国債	2.0000	4,900,000	5,463,647
	52 20年国債	2.1000	7,868,000	8,848,510
	319 10年国債	1.1000	1,400,000	1,484,714
	54 20年国債	2.2000	5,487,000	6,226,812
	55 20年国債	2.0000	4,304,000	4,835,630
	56 20年国債	2.0000	5,870,000	6,606,215
	58 20年国債	1.9000	7,975,000	8,930,484
	59 20年国債	1.7000	4,895,000	5,419,792
	61 20年国債	1.0000	3,800,000	4,005,200
	63 20年国債	1.8000	6,208,000	6,948,552
	64 20年国債	1.9000	8,185,000	9,239,146
	65 20年国債	1.9000	4,777,000	5,407,372
	68 20年国債	2.2000	4,205,000	4,876,790
	70 20年国債	2.4000	8,188,000	9,665,278
	72 20年国債	2.1000	4,900,000	5,661,754
	74 20年国債	2.1000	5,015,000	5,806,066
	75 20年国債	2.1000	3,974,000	4,609,402
	77 20年国債	2.0000	236,000	271,468
	80 20年国債	2.1000	10,423,000	12,105,793
	82 20年国債	2.1000	4,365,000	5,078,590
	83 20年国債	2.1000	3,350,000	3,903,989
	86 20年国債	2.3000	4,850,000	5,761,945
	88 20年国債	2.3000	7,460,000	8,878,817
	91 20年国債	2.3000	6,600,000	7,868,916
	92 20年国債	2.1000	2,970,000	3,477,157
	94 20年国債	2.1000	3,700,000	4,334,476
	95 20年国債	2.3000	8,105,000	9,691,229
	97 20年国債	2.2000	6,840,000	8,100,817
	99 20年国債	2.1000	2,800,000	3,284,708
	101 20年国債	2.4000	4,960,000	6,002,096
	102 20年国債	2.4000	8,520,000	10,316,697
	106 20年国債	2.2000	5,540,000	6,574,872
	107 20年国債	2.1000	2,600,000	3,053,466
	110 20年国債	2.1000	4,800,000	5,636,448
	111 20年国債	2.2000	3,650,000	4,332,367
	1 30年国債	2.8000	7,850,000	9,964,476
	115 20年国債	2.2000	3,000,000	3,559,650
	2 30年国債	2.4000	2,100,000	2,548,518
合計	銘柄数	74銘柄		
	金額		341,654,000	384,049,615

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	384,049,615	98.8
コール・ローン等、その他	4,637,936	1.2
投資信託財産総額	388,687,551	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	388,687,551,846円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	1,294,076,790
公 社 債(評価額)	384,049,615,349
未 収 利 息	3,262,866,085
前 払 費 用	80,993,622
(B) 負 債	119,594,725
未 払 金	117,667,000
未 払 解 約 金	1,927,725
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	388,567,957,121
元 本	321,599,486,803
次 期 繰 越 損 益 金	66,968,470,318
(D) 受 益 権 総 口 数	321,599,486,803口
1 万 口 当 り 基 準 価 額(C/D)	12,082円

*期首における元本額は271,058,114,615円、当期中における追加設定元本額は70,522,732,476円、同解約元本額は19,981,360,288円です。

*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ日本国債ファンドV.A (適格機関投資家専用) 17,654,058円、安定重視ポートフォリオ (奇数月分配型) 432,343,294円、6資産バランスファンド (分配型) 527,999,523円、6資産バランスファンド (成長型) 245,507,699円、ダイワ日本国債ファンド (毎月分配型) 315,037,733,445円、世界6資産均等分散ファンド (毎月分配型) 196,854,386円、ダイワ・株/債券/コモディティ・バランスファンド87,901,192円、ダイワ日本国債ファンド (年1回決算型) 4,763,280,922円、ダイワ・ニッポン応援ファンドVol.4-日本の真価- (国債コース) 290,212,284円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は12,082円です。

■損益の状況

当期 自2014年3月11日 至2015年3月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	8,195,247,292円
受 取 利 息	8,195,247,292
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 2,048,596,551
売 買 益	2,214,581,670
売 買 損	△ 4,263,178,221
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	6,146,650,741
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	50,776,746,933
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 4,033,796,059
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	14,078,868,703
(G) 合 計(C+D+E+F)	66,968,470,318
次 期 繰 越 損 益 金(G)	66,968,470,318

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。